

Essay

随筆

平成二十三年三月一日、TVは、今まで見たこともない場面を映し出していた。何か黒い塊から逃げられずトラックによじ上る人の映像や、仙台空港の様子から、何が起きているかを容易に判断できなかった。

暫くして、その光景が東北地方に未曾有の地震が起こり、巨大津波が各地を襲っているからだと分かったとき、四二年間、放射線生物学の教育と研究に携わっていた私の頭を、「原発はどうなっているだろう」という思いがよぎった。そして、水素爆発の映像を見た瞬間、わが国の原子力や放射線に関する教育が壊滅的状况にあることを知っている身

としては、放射線の健康影響に関する国民の不安は計り知れないものになるに違いないと思わざるを得なかった。

そこで、早速、国民に少しでも正しい情報を伝え正しい判断をしてもらわねばという思いで、日本放射線影響学会の有志に呼びかけ、平成二三

専門性を尊重することの大切さ

渡邊 正己

年三月十八日に放射線影響に関するQ&A窓口 (<http://line.jp>) を立ち上げた。それ以来、七〇〇件を超える質問を受け解説をおこなった。その経験を通して、情報は「流す側の知識と価値観」と「受ける側の知識と価値観」が大きく異なると正しく伝わらないということを実感した。

流す側の国は、硬直化した価値観にがんじがらめになって為すべきことがわからず、科学者は自然に対する畏敬の念を忘れ、マスコミはジャーナリズムとしての志を失っているようである。受ける側（国民）は、多彩な価値観を持ちながら十分な知識を持たず、そのうえ、専門性への尊敬を忘れてきているようである。この苦難を乗り越えるためには、国民は、多彩な専門性が存在することの大切さを知り、専門性を尊重する気持ちを取り戻さねばならないと思うのは私だけだろうか。（京都大学名誉教授）